

伊丹市 文化財ボランティアの会

発 行 : 伊丹市文化財ボランティアの会

発行所: 伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課内 (伊丹市千僧1-1-1)



旧岡田家住宅・酒蔵内部

INDEX

・令和7年度総会開催	P1
・令和6年度第3回市民ガイド「伊丹空港周辺の弥生遺跡ロマン散策」の活動報告	P1
・令和7年度市民ガイドの予定	P2
・研修サロン班活動報告	
近隣市めぐり 「寺内町塚口御坊と伝統の酒薦造を訪ねて」	P3
近隣市めぐり 「野間井をたどり時友から富松神社を巡る」	P4
・学習支援班活動報告	
どんぐり座の伝統を受け継ぐ学習支援班の活動について	P5
いたみ民話会公演レポート (笹原小学校)	令和7年1月18日 P6
いたみ民話会公演レポート (有岡センター)	令和7年2月16日 P7
・ひょうごフィールドパビリオン体験型地域プログラム	P8
「『清酒発祥の地 伊丹』五感で体感」について	
・令和7年2月~4月活動記録	P9
・令和7年5月~7月活動予定	P9
・伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内	P9
・伊丹市文化財ボランティアガイド養成講座のご案内	P9

令和7年度総会の開催

4月14日（月）、スワンホールにおいて、会員35名が出席する令和7年度総会が開催されました。午前9時から幹事一同による会場設営を行い、定刻の午前9時30分に開会。本年度は3人の新しい会員を迎えるとともに、伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 中畔主幹が臨席されました。

末次会長の開会の挨拶では、「以前に増して、会員各位の積極的な参加により、充実した1年でした」と評されたうえで、実際の活動を行うにあたって誰もが心かけるべき「ボランティア活動の4原則（自主性・自発性、無償性、社会性・連帯性、先進性・創造性）」を紹介され、「令和7年度も積極的かつ自主的に会の活動に参加し、盛り上げて欲しい」と述べられました。



来賓の中畔主幹からは、「本年は有岡城発掘調査開始から50年になる。市域の狭い伊丹市は有岡城と伊丹廃寺のふたつの国指定史跡を有している。本年11月の文化財保護強調月間にはこのふたつの国指定史跡を対象とした事業を進めたいと考えている」とご挨拶されました。

この後、総会議案書議事次第に基づいて肃々と議事進行されました。末次会長の令和6年度活動報告、小川幹事の同年度会計報告、角谷監事の会計監査報告はいずれも拍手をもって賛同を得ました。引き続き、末次会長から令和7年度役員人事案が説明され、11名の役員人事案が了承されました。さらに、議案第1号 令和7年度活動計画案を末次会長から、議案第2号 令和7年度予算案を会計担当の小川幹事から説明され、会員の承認を得てそれぞれ成立しました。以上をもちまして、令和7年度活動計画案・予算案は、原案通り承認・可決されました。

5分間の休憩の後、末次会長による新入会員3名（大西、山口、山下 敬称略）の紹介の後、4月度定例会を開催。各班の活動報告及び今後の予定、分科会スケジュールの確認、ガイド勉強会年間スケジュール等について報告・説明がありました。

以上をもって総会・定例会は滞りなく終了。引き続き、会員相互の親睦を図る昼食会が開かれ、午後1時前に全ての予定を終了、散会しました。（編集記）

市民ガイド（令和6年度第3回）

歴史散歩「空港周辺の弥生遺跡ロマン散策」

2月22日（土）第3回市民ガイドを開催しました。

連日極寒の寒さが続く中、応募者があるのかと心配しましたが、8名の申し込みがありました。当日2名のキャンセルがあり6名が参加。会員6名によるガイドでご案内しました。

今回のガイドは、神津周辺に点在する遺跡の中から、岩屋遺跡・田能（たの）遺跡・口酒井遺跡の3つの遺跡を巡りました。



寒い中、早目に集合された熱心な参加者の皆さんと9時開門と同時にスカイパーク北エントランスから入り、ガイドのスタートです。北エントランスに隣接するパークセンター内の「岩屋遺跡と神津の歴史展示コーナー」では、弥生時代の概要と神津の歴史についての説明がありました。

其の後、飛行機の離発着が一望できる「大空の丘」に移動し、大阪国際空港について説明。次に、スカイパーク中央エントランスの「スカイテラス」に向かいながら、遊歩道沿いに設けられた、神津地区から出土した銅鐸・石斧、石包丁・糞痕付の浅鉢のレプリカ展示をクイズ形式で順次説明。目前で発着する飛行機は迫力がありますが、爆音で時折説明が聞き取りにくくなつたのが残念でした。

岩屋遺跡

中央エントランス入口前に展示されている「岩屋遺跡出土堰遺構復元展示」の前では、発掘調査で発見された弥生時代前期の灌漑施設（堰・用水路）や護岸施設について説明。国内最大級で 2400 年も前に当時としては最先端の技術で構築されており、国内でも発見例は少なく貴重なものとの説明に、復元されたレプリカをのぞき込み、熱心に見入る参加者が印象的でした。



田能（たの）遺跡

野外展示場では、円形平地住居、方形竪穴住居、高床倉庫について説明。住居に入って内部の構造などの説明に興味津々の方もおられました。台風の被害で長らく見学出来なかった高床倉庫も見学でき、詳しい説明も聞けて良かったとの声がありました。墓についての丁寧な説明もあり、墓の発見は弥生時代の身分制度や、人々の文化や暮らしの手掛けりになるとの話に少し驚かれた様子でした。



少人数だったため資料館の展示物についても順次説明をおこない、参加者は頷きながら視聴していました。特に、県指定文化財の碧玉製管玉・白銅製釧・銅剣鋤型の時間をかけての説明には何度も展示物に近寄って見ておられました。

口酒井遺跡

これまでに 58 回にもものぼる調査が行われ、縄文時代、弥生時代の遺構や遺物が多く発見されたとの説明がありました。特に、糞痕のついた浅鉢や稻穂を刈り取るための石包丁の出土は、この地域では縄文時代晚期から稻作が行われていたことを示す貴重な発見であり、出土物は市立伊丹ミュージアムに展示されているとの案内がありました。また、参加者からの「大切な場所なのに荒れ地に金網。看板だけでは誰も気づかないよね。」との問い合わせに頷きました。3つの遺跡を巡った後、奈良時代の条里制の名残を見学して解散となりました。寒い1日でしたが、寒空見上げれば梅檀（せんだん）の実が鈴生り、小鳥が啄み、畑には梅の花も綻び始め、参加者の皆様も春の訪れを感じる心地よい散策になつたことと思います。（角谷記）

令和7年度 市民ガイドの予定 西国街道を巡ります

本年度市民ガイドは、伊丹市内の西国街道を3回に分けて開催する予定です。

- ・第1回 9月27日（土）西国街道南
- ・第2回 10月25日（土）西国街道西
- ・第3回 12月20日（土）西国街道北

*上記の予定は予告なく変更する場合があります。ご了承下さい。



<研修サロン班活動報告>

近隣市めぐり「寺内町塚口御坊と伝統の酒薦造（さかこもづくり）を訪ねて」

令和7年2月20日（木）近年最多の参加者25名が阪急塚口に集合。筆者は今回が初めての参加で興味津々。最大級の寒波到来という天気予報でしたが、結果的には、太陽の恵みを浴び、風もなく最高の屋外研修日和でした。今回の案内役の中山さんによると、ご自身が晴れ女のおかげだそうです。

『塚口御坊』は、浄土真宗の道場・寺院を中心に濠、溝、天然の河川を利用、囲郭された寺内町（自治都市）です。今回は、この環濠（かんごう）内外の史跡を巡り、酒薦会社2社を見学します。

① 岸本吉二商店

明治33年創業の薦樽メーカー。社長自ら薦（こも）造りについてご説明いただき、日本遺産の技術伝承に努められていることがわかりました。何と、

（世界で）現在薦を造っている会社は、この塚口にある2社だけとのことです。工場内で製造の様子を実際に見学し、わざわざ包装を解いて酒樽・薦について説明いただきました。樽の材料の杉のいい香りが、お酒の好きな方には堪らないものです。若い30代の社員の方もおられ、伝統的な薦造りの継承がうまくいっている印象を受けました。最近は、小型の薦樽（鏡開き用）も人気があるそうです。



岸本商店

② 塚口神社

祭神は須佐男大神。折角ですのでお参り。

③ カッチャ川橋

昆陽川（武庫川→昆陽寺→御願塚→塚口）にかかる橋。カタカナのカッチャの名は、2つの川の合流点で、川の形が三角鉄のカッチャに似ているからとの松田さんのご説明。

④ 清水町門跡の祠・尼崎藩領界碑

北東部にある門跡。清水町福祉会館前に尼崎藩領界碑が置かれています。



東町門跡と道標

⑤ 東町門跡の祠・道標

南東部にある門跡。門に祀られた愛宕祠の土台部分は土壘跡。道標には「左大坂」「右昆陽中山」の表示があります。

⑥ 矢野三蔵商店

明治5年創業のもう1つの薦樽メーカー。5代目社長から薦造り、歴史等についてご説明いただきました。また、尼崎市都市美形成建築物10号（平成2年指定）に指定されている建物や庭を見学。表側の建物内に井戸が残っていました。歴史の重みを感じる建築物です。



矢野三蔵商店 矢野邸

⑦ 正玄寺（塚口御坊）

真宗興正派。別名：興正寺塚口別院。15世紀には、摂津国西部の一一向一揆の中心寺。

⑧ 南町門

南東部にある門。付近の阪急電車沿いの道では発掘調査で二重の堀が発見され、御坊南側の防御の強固さが判明したこと。また、2つの領界碑が個人住宅の敷地内にあります。

以上の行程、歩数 7000 歩弱の道のりでしたが、外敵からの防御の観点から道が複雑に入り込み、T 字路も多く、同じコースをもう一度は無理の印象。寺内町も、町を防御するという点では、有岡城の惣構に似た感じを受けました。お忙しい中、直接ご対応いただきました岸本・矢野両社長に感謝いたします。（山下記）

(研修サロン班活動報告)

近隣市めぐり 「野間井をたどり時友から富松神社を巡る」

3月 20 日（木・祝）午前 9 時 30 分、時友神社に集合。朝はちょっと肌寒い日でしたが、歩いていると上着を脱ぎたくなる晴れの良いお天気でした。

参加会員 16 名が、酒井さんの案内で伊丹市の境界近くを北から南へ野間井を下りながら、時友・友行・武庫庄・西富松・東富松の村々を探索しました。

このコースは、昨年の 5 月 23 日の「六樋と武庫地区の史跡を巡る」の姉妹編です。酒井さんの研修サロンの集大成ともいえるコースです。

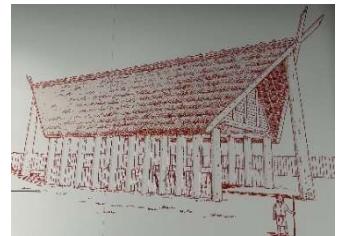


集合地の時友神社を出発し、時友神社再興のために北側を分譲した友行須佐男神社に。この神社の参道入口手前の小川に古い姿を残した反り橋が残っているのですが…、と説明を受けなければ見過ごしていくところでした。（溝はありましたが、小川らしきものは見当たらなかったです）



次は、高野山真言宗の靈應山白衣觀音寺（びゃくえかんのんじ）です。本尊は秘仏の白衣觀音像（5.5cm）で、胎内には如意輪觀音像が納入されていると伝えられ、また、像高 147cm の「毘沙門天像」は一木造りで藤原時代の作です。でも、どちらも見ることが叶いませんでした。そして、しばらくは武庫庄（ムコンショウ）を目指して歩きました。

酒井さんが「着きました。ここで想像してください。ここは右図のような大型掘立柱の建物が建っていました」と。およそ南北 300m、東西 300m の範囲を武庫庄遺跡として登録されていましたが、平成 8 年（1996）5 月 20 日のマンション建設事前発掘調査で大きな丸柱（直径 60cm・高さ 90cm）などが見つかる大発見がありました。しかし、実際の姿は、富松一寸豆がいっぱい植えられている畠でした。



次は、義民・庄屋の五兵衛さんの墓（首塚）に。今は宅地に囲まれ、人一人ぐらい通れる細い路地を通って辿りつきました。昭和 55 年頃まで「浅堀」という地名で呼ばれていましたが、その名の通り、泥田で田んぼとしては良い土地ではなかったようです。

武庫庄十三重塔の残欠に着きました。本来は十三層（笠）のものですが、何故か七層しかなく、六層は何処へ消えたのでしょうか。また、この十三重塔残欠は誰を祀っているのでしょうか。この供養塔は？！果たして？！謎が残るばかりです。

庄の内公園の前に、西村久夫邸がありました。西側に土蔵 2 棟、蔵 1 棟が並び、入母屋・桟瓦葺・母屋は妻入り木造厨子二階建て、大壁は白漆喰塗り、納屋 2 棟、板壁塀、東側には長屋門などを供えた堂々とした屋敷で落ち着いた雰囲気と景観を残していました。



少し歩いていくと、家の周りを水路で囲んだ、西村邸よりももっと立派な森松満邸に。旧西富松村は水路が村を取り囲む環濠集落で、竹やぶや水路がその名残をとどめています。森松邸はその集落のほぼ中央にあります。江戸時代末期の19世紀中頃に建てられ、当主は庄屋を務めていました。二階建ての主屋は妻入の美しい姿が特徴です。離れ、蔵、納屋、門、井戸、堀など12棟で、広大な敷地のなかに建物群が良好に保存されています。家の周りの水は本当にきれいでいた。唯一、水路らしきものを見たのは、ここが最初で最後だったよう思います。宅地開発され、町のなかに川や水路が見えなくなってきていました。

今なお土壘と堀跡の一部が残る東富松村の富松城跡に。富松城は今から約500年前の戦国時代、土壘と二重の堀を備え、東西150m以上、南北200m以上の規模の城館であったと思われます。今も残る小高い土壘は戦国時代の争乱を今に伝える大切な歴史的遺産です。

最後は富松神社に。この神社は、社伝によると、僧行基が猪名野笠原を開墾した時の23ヶ坊の1つにして素盞鳴尊薬師伝を祀り、厄災除祈願所として造営せられたものです。半日にわたり野間井を辿り、村々を巡りましたが、その当時の面影が残るものは、住宅が増えたことにより、消えていってしまったように思われます。また、「地名」から歴史の流れが見えてくることもありますが、今となつてはその掘り起こし作業をしないと、歴史に埋没してしまうのではと危惧します。(松山記)



どんぐり座の伝統を受け継ぐ学習支援班の活動について

昔話になりますが、パソコン会、古文書会などの分科会の一つとして「どんぐり座」という紙芝居・ペーパーサート（紙人形を棒につけて、それを動かして演じる人形劇です）の公演を行うグループがありました。平成17年（2005）2月の発足で、当時は20名ほどの座員が3グループ（紙芝居2班・ペーパーサート班）に分かれ、今昔物語、有岡古続語、伊丹の民話集などの文献から抜粋して10分ほどの話を制作しました。

本にあるわずか3~5行程度の昔話の解説を元に登場人物数人をひねり出し、堅苦しい説明っぽくならないようセリフを考え、時代考証した髪型や衣装を描いて作品を創作しました。また作品ごとに挿入歌をハーモニカで演奏しました。

最初の作品は「昆陽寺の盗まれた釣り鐘」「昆陽池の行基鮒」「三軒寺の砂かけ狸」で、バックの曲は♪夕焼け小焼け、♪ふるさと、♪証城寺の狸囃子でした。

その後、3グループは一年に一作品ずつ増やしていく、公民館祭り、岡田家祭り、老人ホーム、小学校、地域の集会所などに、2メートルの鉄パイプ数本の枠組み、暗幕、スピーカー、マイクを車一台に積み込んで座員十数名が公演に行きました。当初、屋外でのお祭りにも参加しましたが、雨天で機材が痛んだり、隣のグループのギター演奏が邪魔だったりと弊害が多くだったので場所と時間を決めての屋内の公演に絞るようになりました。



作品数も 15 となり、集会所や小学校でのリピーターも出来ましたが、座員の高齢化でペープサートを上演する体力がなくなり 1 グループに集約しました。ご存知の通り、ペープサートは 1 メートルくらいの竹竿の先に 1 メートルくらいの段ボールの台紙に絵を貼っている人形を操作するもので、中腰で操る体力がなくなってしまったのです。

座員の高齢化、座員数不足、道具運搬の担い手欠如などの内部要因に加えて、コロナ禍などの外部要因も相まって、人が集う行事の開催・運営が困難となり、来るべき公演の日に備えて発声練習のために集まるだけとなり、スワンホールでの祭り行事に 4 人が参加したのを最後に、2022 年 3 月に解散となりました。

伊丹の無形文化財である民話を伝える活動を担う後継組織として、令和 4 年（2022）6 月に新設されたのが学習支援班です。どんぐり座解散の原因だった車の運転や機材搬出搬入の困難を排除して、紙芝居の画像をパワーポイントに収録するなどのデジタル化を推進、公演先ではプロジェクターで画像を再現するなどの工夫により、どんぐり座時代に制作した紙芝居を活用して、民話の紹介を行っています。

現在は、小学生など子供たちを対象に、紙芝居上演、作品に関する場所や人物の解説、工作支援の三本立ての対外活動を展開しておりますが、当会のジュニア事業部門を担う組織として、さらなる発展を目指しており、会員の皆さまの積極的なご参加をお願いするものです。（中村記）

《学習支援班活動報告》

いたみ民話会公演レポート・・・ 笹原小学校

令和 7 年 1 月 18 日

1 月 18 日（土）8 時 30 分から 笹原小学校において、デジタル紙芝居の公演と工作支援を行いました。同校の土曜学習の一環として、校区コーディネーターから依頼を受けたものです。

学習支援班としては、はじめての小学校での活動で、メンバー 9 人で訪問。参加者は小学校一年生から六年生の 38 人でした。

デジタル紙芝居の演目は『野間の一本松といたずら狐』と『すもう狸』の 2 本で約 30 分の公演です。紙芝居が始まると、子どもたちは紙芝居に目を向けて、その世界に真剣に入ってきます。演じている私たちも、キラキラした子どもたちの瞳に引き込まれ、演技にも熱が籠っていました。



次は、工作支援です。約 1 時間で「紙製の竹とんぼ」を作り、飛ばしてみんなで遊ぶところまでの工程です。最初はどのようにして作るのか？という顔をしていた子どもたちですが、私たちが説明を始めると、後は、子どもたち同志でやり方を教え合い、色塗りになると、俄然、元気が出てきて、写真のように、色塗りに集中し、綺麗に塗っていました。

ただ、厚紙を使っての竹とんぼでしたので、何枚も重ねた紙をホッチキスで止めるのは、小さい子どもには難しく、私たちが手伝いました。

完成させた子どもも増え、「くれぐれもお友だちに向けて飛ばさないように！ 友だちのいない場所で飛ばすように！」との注意をし、教室の中で、順次、飛ばして遊び始めました。



竹とんぼの手で廻す所には竹串を使っていたので、“遊びの天才”の子どもたちは、「これ、コマにもなるよ」と机の上で上手に廻してくれました。カラフルに廻るコマ！コマ！！

あんなにも色塗りに集中する子どもが多いとは…。これからは、色塗りを中心とした工作もいいのではと思えた「竹とんぼ作り」でした。(松山記)

«学習支援班活動報告»

いたみ民話会公演レポート・・・有岡センター 令和7年2月16日

2月16日(日)午後1時15分から有岡センターにおいて、デジタル紙芝居の公演を行いました。「サロン外城(外城自治会のふれ愛福祉)」から酒井さんを通じて依頼があったものです。学習支援班としては珍しくおとのんのグループを対象とした活動で、メンバー8人で訪問しました。

デジタル紙芝居の演目は『法厳寺の大きなクスノキ』『すもう狸』『清酒発祥の地伊丹』の3本で、酒井さんにとっては、この日が最後の公演になります。



まず、それぞれの紙芝居を始める前に角谷さんから、伊丹坂や法厳寺に伝わる話などを5分ぐらい話してもらい、紙芝居の導入としました。

この日はマイクの本数が少なく、地声でやることになり、私たちもできるだけ大きな声で、参加者に声が届くように、前を見て演じました。聞こえなかったらどうしようかと心配もしましたが、終わってみれば、それは地声でもできるのだという自信に変わっていました。

おやつタイムの休憩を挟み、清酒発祥の地・鴻池、中山鹿介、鴻池稻荷祀碑などの史跡について、末次さんより30分間説明され、ちょっとしたミニ講演会となり、参加者だけでなく私たち演者にとっても大変勉強になりました。その後の紙芝居『清酒発祥の地伊丹』への効果は絶大なものでした。



今回の参加者は、親・子・孫の三世代で来られた方を含め、おとなから子どもまで総勢22人でした。この催しの様子は外城自治会のホームページ(サロン外城「民話」)に掲載されています。令和6年度の学習支援事業はこれで終わりますが、“私たち自身が楽しむことを大切に！”をモットーに、民話を通して、伊丹の歴史を伝えていくという私たちの願いに一歩、一歩近づくようこれからも頑張っていきたいと思います。(松山記)

いたみ民話会公演の申込み方法

伊丹の文化財や昔話・民話をアレンジしたデジタル紙芝居(プロジェクター上映)を市内の小学校等の施設を訪問して、無料公演を行います。

申込み方法については、右の2次元バーコード、
または下記URLにアクセスしてご覧ください。

<https://itami-bunbora.main.jp/minwa/minwakai.html>



ひょうごフィールドパビリオン体験型地域プログラム 「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」ガイドツアーを 当会がお手伝いしています！ ---

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催中の大阪・関西万博。万博開催期間中、兵庫県をパビリオン、地域の現場をフィールドとして、「見て・学び・体験する体験型地域プログラム」が兵庫県内に200以上用意されています。その中で、伊丹を訪れる人たちのために用意されたプログラムが、伊丹市主催の体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」です。「清酒発祥の地」を体感出来る市内施設を巡り、「清酒発祥の地 伊丹」及び「日本遺産」について五感で体感いただぐガイドツアーですが、当会会員が各施設におけるガイドをお手伝いしています。

なお、当プログラムの詳細については下記 URL を御覧ください。

<https://expo2025-hyogo-fieldpavilion.jp/program/152>



(編集記)

活動記録（令和7年2月～4月）

【定例会】2/11（火）・3/11（火）・4/14（月）

【史跡ガイド】[ガイドコース名、参加人数]

2/22（土）[第3回市民ガイド 伊丹空港そばの弥生遺跡、6人]

3/7（金）[伊丹郷町、21人]・4/5（土）[伊丹郷町、15人]

4/9（水）[伊丹郷町、15人]・4/20（日）[伊丹郷町、10人]

【旧岡田家住宅・酒蔵 団体ガイド】3/15（土）25人、3/16（日）39人

【研修サロン班】2/6（木）勉強会、2/20（木）屋外研修「寺内町塚口御坊と伝統の酒薦造を訪ねて」

3/6（木）勉強会、3/20（木）屋外研修「野間井をたどり時友から富松神社」

4/3（木）勉強会、4/17（木）屋外研修「新田中野村」

【学習支援班】例会：2/18（火）、3/18（火）、4/15（火）

対外活動：2/16（日）有岡センター（デジタル紙芝居）

今後の予定（令和7年5月～7月）

【定例会】5/20（火）・6/10（火）・7/8（火）

【史跡ガイド】[ガイドコース名、参加人数]

5/17（土）[伊丹郷町、10名]、5/23（金）[伊丹郷町、28名]、

5/31（土）[伊丹郷町、10名]

【旧岡田家住宅・酒蔵 ガイド当番】令和7年4月12日から6月29日まで実施

【研修サロン班】5/8（木）勉強会、5/15（木）屋外研修「今西氏屋敷（豊中・服部）」

【ガイド勉強会】5/27（火）伊丹郷町コース、6/24（火）伊丹郷町コース、

7/29（火）旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅

伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財（史跡）のガイドをご希望される方は、申込書に必要事項をご記入の上、下記へお申し込みください。

* 申込書は右の2次元バーコードよりダウンロードして下さい。



◇申込書をファックスまたはご持参の場合

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当へご持参いただくか、

ファックスで送信願います。☎: 072-784-8090 FAX 072-784-8048

◇申込書をメール送信の場合

文化財ボランティアの会にメール (ibunbora@yahoo.co.jp) でお申込みください。

●ガイドコース

【A 伊丹郷町コース】

有岡城跡・荒村寺・市立伊丹ミュージアム(旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅)

猪名野神社など

【B 伊丹緑道コース】

猪名野神社・伊丹緑道（道）・白洲屋敷跡・辻の碑・伊丹廃寺跡など

【C 行基の足跡コース】

昆陽池・東天神社・山陽道（西国街道）・昆陽寺など

【D 清酒発祥の地コース】

鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など

【E 市南部コース】

御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社など

【F 市東部コース】

有岡城跡・桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・伊丹スカイパークなど

私たちと一緒に 文化財のガイドをしてみませんか

文化財ボランティア養成講座のご案内

当会は、平成8年に伊丹市教育委員会が主催した文化財ボランティア養成講座終了者有志により設立されました。現在約40名の会員が活動しています。会員は郷土の文化財を愛し、学び、それを更に後世に伝える取り組みをしています。また、様々な経験学習から学び得たことを広く市民に還元することを目的としています。

なお、会員には正会員と準会員があります。今年も11月に予定されている文化財ボランティア養成講座（全4回）を受講・修了すれば正会員となります。ぜひ、私たちの仲間になって活躍の場を見つけて下さい。



■文化財ボランティア養成講座についてのお問い合わせは下記まで。

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当 (☎072-784-8090)